令　和　４　年　第　４　回
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

Ⅰ　開会及び閉会の日時

令和４年３月18日（金）

開会午後５時30分、閉会午後６時40分

Ⅱ　場所

県民会館611号室

Ⅲ　出席委員

１番	町野　利道	２番	山﨑　弘一	３番	黒田　卓
４番	大西　ゆかり	５番	村上　美也子	教育長	荻布　佳子

Ⅳ　説明出席者

教育次長	清原　明宏	教育次長	坪池　宏
教育企画課長	松井　邦弘	生涯学習・文化財室長	吉田　学
教職員課長	福島　潔	県立学校課長	佐野　友昭
小中学校課長	水戸　英之	保健体育課長	橋本　隆

Ⅴ　傍聴人数　　１人

Ⅵ　会議の要旨

午後５時30分、教育長が開会を宣する。

１　会議録の承認について

令和４年３月10日開催の令和４年第３回富山県教育委員会会議録

会議録閲覧

荻布教育長から可否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

２　議決事項

議案第５号　富山県立学校職員服務規程一部改正の件

議案第６号　富山県教育職員免許状に関する規則一部改正の件

教職員課長より説明し、原案のとおり可決した。

議案第７号　指定技能教育施設における連携科目等の変更に関する件

議案第８号　技能教育施設の廃止に関する件

議案第９号　富山県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則制定の件

県立学校課長より説明し、原案のとおり可決した。

３　報告事項

⑴　令和３年度第２回とやま学校多忙化解消推進委員会開催結果について

教職員課長より説明した。

⑵　令和４年度富山県立学校入学者選抜の合格状況等について

⑶　第３回令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会の開催結果について

県立学校課長より説明した。

⑷　公立小学校の設置及び廃止について

小中学校課長より説明した。

４　今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹より説明した。

５　議決事項

午後６時 23 分、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第７項ただし書の規定に基づき、議案第 10 号から議案第 12 号については、委員全員の同意により会議を非公開とすることを可決し、議事の審議に入った。

議案第 10 号　富山県文化財保護審議会委員任命の件
議案第 11 号　富山県銃砲刀剣類登録審査委員任命の件
生涯学習・文化財室長より説明し、原案のとおり可決した。
議案第 12 号　事務局職員の人事異動に関する件
教育長より説明し、原案のとおり可決した。

なお、非公開で審議した議案第 10 号から議案第 12 号については、適切な時期に公表することを決定した。

６　議事

〇議案第５号関係

〔町野委員〕

・今は、出勤簿はパソコンで管理しているのか。紙なのか。

〔教職員課長〕

・学校においては、出勤簿は紙で、それに押印をしているという現状だ。近い将来、システム的な管理ができるようにしたいと思っているが、来年度からというのは無理なので、当面押印作業だけでも廃止したいということである。

〔教育長〕

・県庁では随分前にネットワークを作り、パソコン管理となっているが、そのタイミングでは同時にはできなかった。学校は別途、いろいろなネットワークを独自で持っているので、そこをどうするかというところからの検討になるが、まだそこまでは至っていない状況である。今後、県庁でもネットワークの見直しもあるとも聞いているので、そのタイミングと合わせてとなるかは分からないが、ネットワーク上で管理できるということは当然の流れだと思っている。今できることとしてやりたい。

〇議案第９号関係

〔町野委員〕

・コミュニティ・スクールの設置は、今回初めてか。前に名古屋で聞いたことがある。

〔教育長〕

・初めてだ。

〔黒田委員〕

・地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、コミュニティ・スクールが日本でもできるようになったが、これは、欧米の事例などを参考に法律改正が行われていると思われる。そのため実際には、公立学校の運営の仕方も国によって相当違っていて、先進的にやっている国では、学校運営協議会に校長の人事権があるとか、教職員人材などに関して、学校が人事権を持っており、独自に採用しているというところもある。日本で言うと、私立のような運営の仕方になるかと思う。このようにコミュニティ・スクールといっても日本とは非常に違うので、学校運営協議会は、文部科学省が示すこのような感じになるというのは分かる。ただ、このレベルで運営協議会を作っても、実質的なメリットがあるかということは難しい。例えば学校予算の仕組みも、アメリカやカナダでは、予算の８割くらいを学校区からの税収で賄う形になっており、地域に対する責任や地域住民の学校に対する意識は日本とはかなり違う。これと同じ形を取ることは今の日本では難しいところがあると思うが、そういう面も考えながら、南砺に設置が予定されているコミュニティ・スクールと学校運営協議会を通じて進め、形としてだけ運営協議会を作っているとならないようにし

てほしい。コミュニティ・スクールのモデルとなるという発想で、富山から発信できるといいのではないかと思う。

〔大西委員〕
・コミュニティ・スクールについては、富山市などが小中学校などで取りかかるということを聞いているが、県立高校については、生徒の居住地と学校の所在地が市町村をまたいでいるケースも多くあると思う。県立高校でのコミュニティ・スクールはどんなメリットもあるのかと思っていたが、南砺平高校が設置するということで、なるほどと思った。生徒も南砺平に住んでいて、関わっている地域住民も顔が見える関係かと思って見ていた。これを進めていくことは賛成だが、他の学校でコミュニティ・スクール化されたときに、そのコミュニティーは学校が所在するコミュニティーになるのか。富山市であれば「保護者以外の地域住民等」は、富山市の学校近辺のコミュニティーから選ばれて運営協議会が作られると思うが、その地域の方々と学校側との対話は黒田委員が言われたように難しいところもあると思う。そういう面で、やはり、校長の経営能力やリーダーシップの力が大事になってくると思う。
・学校評議委員を定める制度とは関連がないのか。学校評議員の制度が移行するような形になるのか。
〔県立学校課長〕
・学校評議員制度では評議員を置くことができるという規定にしているので、学校運営協議会を設置される学校は、学校評議員を併設してもいいし、学校運営協議会だけでやることも可能になっている。
〔大西委員〕
・二つともあるというのも可能か。
〔県立学校課長〕
・多くは、運営協議会に移行されるのではないかと思っている。

〇報告事項(3)関係
〔大西委員〕
・今年度行われた３回の資料を読み、委員から闊達・先進的な意見があって、本当に素晴らしい内容の委員会だと思った。この内容をまとめてどのように活用していくのか。すぐにでも取り入れられたり、活用できたり、進展させられる意見はすぐに反映されるのか。あるいは未来に控えているかもしれない高校再編等の準備として利用するのか。
・私学も含めた富山県の高等学校教育のあり方というような検討会もあれば良いのかと思う。私学、県立両方併せて話せばいいのではないかという意見もあったと思うが、同じような感想を持った。
〔県立学校課長〕
・この検討委員会で、いろいろな意見をいただいている。意見を踏まえて、例えば一つには、課題発見解決能力を身につけさせる教科横断的なＳＴＥＡＭ教育を推進することもあり、これについては次年度、成長戦略のアクションプランにも盛り込んで、新しい事業を展開することとしている。今年度は３回会議を開催したが、来年度も引き続き検討することとしている。意見を踏まえ、最終的には検討委員会で報告書を作成したいと考えている。
・私立を含めた本県の高校教育のあり方については、公私連絡会議の場でも、県立と私立が協調して取り組むことも話をしている。
〔教育長〕
・取り組めるところは来年度の予算に反映してやっているし、やろうとしているものもある。たとえば、「この学校に行ったら何を学べるかをもっと強くアピールすべき」という意見があるが、いろいろやってはいるが、もっと努力が必要かと思う。校長会などの様々な場面で意見を早めに伝えていくようにしたい。
〔大西委員〕
・農業科や水産科など、学校だけでは解決しない就職や受け入れ先も問題になってくると思う。すぐにはできないと思うが。
〔教育長〕

・関連する産業との連携など、産業の方でご協力いただければありがたい。そういった連携もさらに必要かと思う。

〔大西委員〕
・私学も含めた会議も、企業やいろいろな分野の方がいたら、多くの意見があると思う。
〔町野委員〕
・ＳＴＥＡＭ教育と国際バカロレアという新しい言葉が出てきたので、簡単に教えてほしい。
〔県立学校課長〕
・ＳＴＥＡＭ教育は、サイエンス、テクノロジー、エンジニアリング、アート、マスマティックスということで、いわゆる教科を横断した学びによって、子どもたちの探究的な学び、課題解決の力を高めていこうという教育である。
・国際バカロレアは、課題論文や批判的思考などの探求的な特徴的なカリキュラムを実施し、ディプロマプログラム（ＤＰ）をやれば、海外大学への受験資格を得られる等の有利な面もあるプログラムである。グローバル人材育成のための有効な方策の一つだと思われる。ただ、実施に当たっては、教える教員、生徒双方に高い外国語の能力が求められたり、指導者には要件もあるため教員の確保が難しいなど、いろいろな壁もあるのが現実だと思っている。
〔町野委員〕
・人間の可能性はすごく大きい。今の技術者は、昔に比べて 20～30 倍くらいのものをハンドリングしている。子どもたちもどんどん伸びていく。指導する先生方も大変だろうが、どんどん発展していくということで、大変だなあと思う。
〔山﨑委員〕
・国際バカロレアについてだが、公立高校がその設立を受け持つべきことなのかと常々疑問に思っている。公立高校においては、学習指導要領に基づいて教科指導をしっかりしたうえで、その中で特別の何かをしているのだと思うが、この場合、教科指導の時間をかなり削らなければならない。また、ＳＴＥＡＭ教育という言葉も突如として出てきたものだと思うのだが、それについても学校のどの時間にどうやってやるのかということが全然分からないところがある。教科横断的な形の学習ということだろうが、これも教科指導の時間との関わりが分からない。
〔教育長〕
・たしかに突如として出てきているという印象はあるかもしれない。新年度、課題解決学習に取り組む学校への支援、ＳＴＥＡＭ教育に取り組む学校への支援ということで予算を確保している。教育委員会の中でも説明の機会を設けたいと思っている。もう少し具体的なところを示すことができるようにしたい。
・バカロレアについては、地方だと生徒の獲得や継続的な運営というところで難しい部分もあると聞いている。少し勉強していかねばならない。グローバル人材の育成という目的自体はそのとおりだと思うが、実際、この制度を活用して何を作るのかということはよく考えてみなければならない。

午後６時 40 分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。